

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：12612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02537

研究課題名(和文) 非西洋後発国における業績主義とエリート間葛藤の関係性に関する比較教育社会史的研究

研究課題名(英文) A Comparative Historical Study on the Relationship between Performance-based Meritocracy and Conflicts among the Elites in Non-Western Developing Countries

研究代表者

武石 典史 (Takeishi, Norifumi)

電気通信大学・情報理工学域・教授

研究者番号：00613655

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は近代日本の軍事・文民両エリートの選抜制度・実態を検討しつつ、業績主義的な度合いと政治的秩序との関係性を検討するものである。なお、比較対象として、同じく非西欧後発国であるブラジル、タイにおけるエリート層の分析も進めた。非西洋エリアは西欧先発国とは異なり、エリートを学力や試験による選抜で輩出するという特徴を有しており、したがって、軍事・文民エリートそれぞれの「業績」「選抜の度合い」が彼らの心性に大きな影響を与えていたことを明らかにした。併せて、後発国における政治集団間の葛藤を考えていくうえで、「業績主義が徹底している集団ほど心理的に優位に立つ」という視点の重要性を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は徹底した資料調査をもとに、「エリートの選抜」という教育社会学的視点と「政治的諸アクターの相剋」という政治学的テーマを架橋しつつ、非西洋後発国における業績主義の度合いとエリート間葛藤との関係性を、国際比較により考察しようとする冒険的プロジェクトである。教育社会学、政治学、地域研究の諸学との対話・検証に耐えうる実証的かつ説得的な見解の提示に努めた。以上のように、文・武官という「政治学」的なアクターを、「教育社会学」的な概念・方法で分析することを通して、両ディシプリン間の対話を活性化させ未開の地を開拓しようとする意欲的な試みとなった。

研究成果の概要(英文)：This research aims to examine the selection systems and realities of the military and civilian elites in modern Japan, while exploring the relationship between meritocracy and political order. Additionally, comparative analysis of elite groups in Brazil and Thailand, two non-Western developing countries, was conducted as a point of reference. Unlike Western advanced nations, the non-Western context exhibits a distinct characteristic of selecting elites based on academic prowess and examination performance. Consequently, it becomes evident that the notions of "merit" and the "degree of selection" exert significant influence on the mentality of both military and civilian elites. Furthermore, this study highlights the importance of the perspective that "groups with a strong emphasis on meritocracy tend to gain a psychological advantage" in the context of analyzing intergroup conflicts within developing countries' political spheres.

研究分野：教育社会史

キーワード：将校 官僚

## 1. 研究開始当初の背景

これまで教育社会史研究は学歴や試験が近代日本に与えた影響について、西欧の社会階層や学校システムと比較しながら着実な成果をあげてきた。確かに近年においても論稿が数多く発表されてはいるが、他の領域や他エリアへの関心が希薄なまま、やや一国主義的な視点で歴史的現象を分析する傾向が強まっている。こうしたスタンスであっても、事実や構造の解明自体は可能だが、それらが明らかになればなるほど、マクロレベルの社会変動を描き出すことが困難になりうると考えられる。

要するに、一見すると研究の蓄積が進んでいるが、その多くが「一国主義的」な限界を抱えているゆえ、広く非西洋に適用しうるような、理論面の発展に寄与できていないといえる。

「業績主義とエリートとの関係性」という問いを立てると、研究対象は必然的に国境を越えてしまはずだが、日本研究の「国際化」志向が弱かったゆえ、日本の事例が非西洋後発社会の変動にどう位置づけるかが検討されないまま、次の段階に進めないでいた。

## 2. 研究の目的

本研究は近代日本の軍事・文民両エリートの選抜制度・実態を、ブラジル・タイのケースと比較しながら分析したうえで、業績主義的な度合いと政治的秩序との関係性を検討するものである。すなわち、文・武官という「政治学」的なアクターを、「教育社会学」的な概念・方法で分析することを通して、両ディシプリン間の対話を活性化させ未開の地を開拓しようとする志向性を有した研究である。これらの検討結果をふまえつつ、非西洋エリアの近代化過程を説明する理論の足場づくりを目指した。

## 3. 研究の方法

本研究では、実証性を追求した資料（歴史資料）ベースの分析を進めた。具体的には、(1)公文書館・資料館等での一次資料の収集・整理、(2)二次資料の整理、(3)収集資料でデータベースの拡充をはかり、個票化したデータをもとに検討した。

また、近代日本を対象にするだけでなく、主にタイ（アジア地域）とブラジル（ラテンアメリカ地域）をも俎上に載せ、比較分析するという手法を試みた。なぜ比較対象が上記二国なのか。アジア諸国はそのほとんどが植民地経験を有し、独立戦争の過程で軍が大きな役割を果たした。独立後に政軍関係がしばしば緊張状態に陥るのは、選抜制度ゆえではなく、独立の主体たる軍の英雄意識ゆえである。したがって、日本と同次元で比較しうるのはアジアにおいてタイのみである。ブラジルは南米でいち早く官僚制およびその選抜制度が整備された国とされる。そして両国ともに近代化の過程で軍と官僚の衝突や軍事クーデターを経験している。こうした理由により、この両国をピックアップした。

## 4. 研究成果

本研究の成果は下記のとおりである。

(1) 近代タイにおいては、将校の選抜・養成の「業績主義化」が文官のそれに先行する形でシステム化された。文官においてはパトロン・クライアント関係を前提とした任用制度からの脱却が進まなかった。タイの将校の個票データの分析を通して、「業績主義化」によって醸成された将校集団の「自負」と「凝集性」の高さが官僚に対する陸軍の心理的優越性の一因になった、という仮説を提示した。

(2) 近代ブラジルでは長らく、学校教育制度は上級階級による寡頭制を維持するシステムとして機能した。これに対し陸軍は、試験や学歴に基づく「能力」を重視する姿勢を打ち出し、これにより、将校団は中間階級出身者を中心に形成された。ブラジルにおける文民エリートと軍事エリートのコンフリクトは一見、階級間対立のように映るが、しかしその背後には「官僚＝縁故主義」と「将校＝業績主義」の相克があったことをあきらかにした。

(3) 近代日本の陸軍は周知のように、試験成績や学歴に重きを置き人材を選抜し、そして配分した。軍刀組（陸軍大学校卒業生）に代表される成績優秀者は、他の将校に対し心理的に優位に立つことをあきらかにした。この点をふまえ、「近代学重視にともなう開放性」と「試験による選抜・序列化」という「二つの近代性」を原理とする将校の選抜・養成のありかたが、そうした心性を生じさせ、陸軍内における独善主義やセクショナリズム、暴走などの要因の一つになった

と考察した。

(4) 諸エリートと階級との関係性は、本研究が対象とした3エリアでやや異なった様相を呈したが、全般的には他の後発国でも観察できる現象である。各国の歴史的動向や構造を「特殊論」にとどめるのではなく、より自覚的に広く世界の非西洋後発国が直面する宿命的問題として検討が深められていくべき、との今後の課題を提示した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 武石典史	4. 巻 57 (2)
2. 論文標題 後発国日本における陸軍将校の心性：二つの近代性を帯びた選抜・養成過程	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 軍事史学	6. 最初と最後の頁 50-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norifumi TAKEISHI	4. 巻 34 (1)
2. 論文標題 Agents of Bureaucratic Polity in Modern Thailand : Focusing on the Training of Bureaucrats and Military Officers	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 電気通信大学紀要	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18952/00010042	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 武石典史	4. 巻 13
2. 論文標題 大正期における軍事エリートの養成	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間科学研究	6. 最初と最後の頁 33-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norifumi TAKEISHI	4. 巻 35 (1)
2. 論文標題 Nepotism and Meritocracy: Structure of Conflict Between Elites in Modern Brazil	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 電気通信大学紀要	6. 最初と最後の頁 42-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18952/00010270	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Norifumi TAKEISHI	4. 巻 26 (1)
2. 論文標題 The Role of Overseas Study in Systematizing School Education in Later-Developing Countries: Acceptance of Western Academic Study in Modern China	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Thai Journal of East Asian Studies	6. 最初と最後の頁 128-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関